

教授設計理論を包含した初学者向け学習設計支援手法の検討

根本淳子^{*1}, 高橋暁子^{*2}, 竹岡篤永^{*3}

^{*1} 明治学院大学, ^{*2} 徳島大学, ^{*3} 明石工業高等専門学校

Approach to Support Learning Design for Beginner Including Instructional Design Theory

Junko Nemoto^{*1}, Akiko Takahashi^{*2}, Atsue Takeoka^{*3}

^{*1} Meiji Gakuin University, ^{*2} Tokushima University,

^{*3} National Institute of Technology, Akashi College

In this research, we aim to propose support methods that learners themselves can develop ability to construct their own learning. We examined the learning design method using RM model as an approach to use professional design skill for undergraduate students. This proposed method consist of (1) a problem analysis for beginner themselves to be able to construct goal, subject, and learning activities (2) learning design support tool for comparing others using the RM model, and (3) a story type learning process that can learn effectively with by presenting realistic tasks.

キーワード: 学習支援, 教授設計, 教育方法, 主体的な学びの支援

1. はじめに

教育実施者に必要なスキルのひとつに教授設計スキルがある。教授設計スキルとは、目的や対象に合わせて学習活動を組み立てる力である。近年、自律的な学習者を生み出す方略として、教授設計の基本知識やスキルの学習が検討・導入されつつある⁽¹⁾。教授設計スキルを身に付けることは、学び方を学ぶために有用との考えからである。実際にスタディスキルを扱う授業などで本スキルを取り扱う実践例もいくつかみられるようになってきた⁽²⁾。しかし、これらの実践例は、教授設計の専門家によるもので、一般に活用可能なツールやプロセスはほとんど見当たらない。

リフレクションは学習活動や成果を客観的に見る力として有効である⁽³⁾。筆者らは、成功・失敗体験を織り交ぜた RM モデル (リフレクションメタモデル) を用いた学習活動について検討・実施してきた⁽⁴⁾。RM モデルは他者の振り返りの過程を示したもので、他者の振り返りの様子を自分の振り返りにつなげるための役割を果たす。学習者はモデルの学びや学習成果を「他人ごと」として分析する。

本研究では「一般の大学生 (ID 専門家養成課程や教員養成課程ではない)」を対象に、RM モデルを活用して自身の学習から一步離れ、新しい視座を獲得し、学習者自身が自らの学びを組み立てる力を養成できる支援手法を提案することを狙っている。

2. 初学者向け教授設計スキルの養成の検討

教授設計に関する理論や知識の学習には、順序立てた丁寧な説明よりも、文脈・活動の提示が、学習者を学習内容に引き込みやすい。本研究では、これまでの研究成果を生かして学習内容を教授してから学ぶのではなく、教授設計を学ぶミニストーリーと、学習者が上手くいかない体験や情報を駆使して学びを作りあげていくデザインを採用する着想に至った。教育専門家向けの教授設計スキル養成の研究では限界があった、研究成果の応用と展開を目指している。大学の初年次教育を受講する学習者を中心に検討している。対象者は受験など様々な学び方を経験しているもの、学校教育の枠組みの中での学びが大半であり、自分の成長と向き合う柔軟な学習の設計に戸惑いを感じる学生も多

い。教授設計を活用する可能性はあるものの、初学者に合ったアプローチが求められる。

本研究における問いを下記の点として設定した。

1) 教授設計の学習課題分析を初学者の自律的な学習支援に導入するためには、どのような方法が効果的であるか

2) ストーリーと RM モデルを組み込んだ学習設計活動は、学習者にどのような支援をもたらすか

3. 初学者向けの学習設計支援手法案

初学者が自分の将来を見据えた学びづくりに教授設計の要素を活用できるようになるための支援策として、RM モデルを援用した支援手法を検討し図1のように整理した。支援手法は、(1) 教授設計理論に基づき、目的や対象に合わせて学習者自身で学習活動を組み立てられる初学者向け課題分析手法、(2) RM モデルを活用した他者比較による学習設計支援ツール、(3) 現実的な課題の提示により臨場感を持って効果的に学ぶことができるストーリー型の学習プロセスによって構成される。「初学者向けの課題分析手法」を用いて作成した学習設計書を、「RM モデルを活用したピア（他者）比較ツール」を用いて洗練させ、「ストーリー上に展開される活動」を提供することで、初学者向けの教授設計支援手法として実証的に確立する（図1）。

4. 今後の課題

本発表では、教授設計スキルを学習者自身の学びに

役立てる手段・道具としての開発を目指し、初学者向けの教育設計支手法について検討した。本提案は検討段階であるため、プロトタイプをいくつか作りながら開発を進めていく必要がある。本研究では、教授設計スキルの中でも課題分析の支援に着目しているが、類似した先行研究がまだ見つかっていない。課題分析手法を学ぶ教材を参考にしつつ、関連研究について調査を並行して行い、本研究の特徴を明確にしていく。

謝辞

本研究の一部は、JSPS 科研費 18K11575 の助成を受けている。

参考文献

- (1) 市川尚, 鈴木克明: “インストラクショナルデザイン理論を学ぶスタディスキル科目の実践”, 日本教育工学研究報告集, JSET14-5, 127-130. (2014)
- (2) 根本淳子, 市川尚: “自分の学びをデザインする力の向上を目指した授業実践”, 日本教育工学研究報告集, JSET18-5, 239-242. (2018)
- (3) Schon, D. A. : “Educating the reflective practitioner”, Jossey-Bass, San Francisco. (1987)
- (4) 根本淳子, 竹岡篤永, 高橋暁子, 鈴木克明: “RM モデルを用いたオンライン学習者コンピテンシーベースの振り返り活動の提案”, 情報処理学会研究報, (Vol.2017-CLE-23 No.07) (2017)

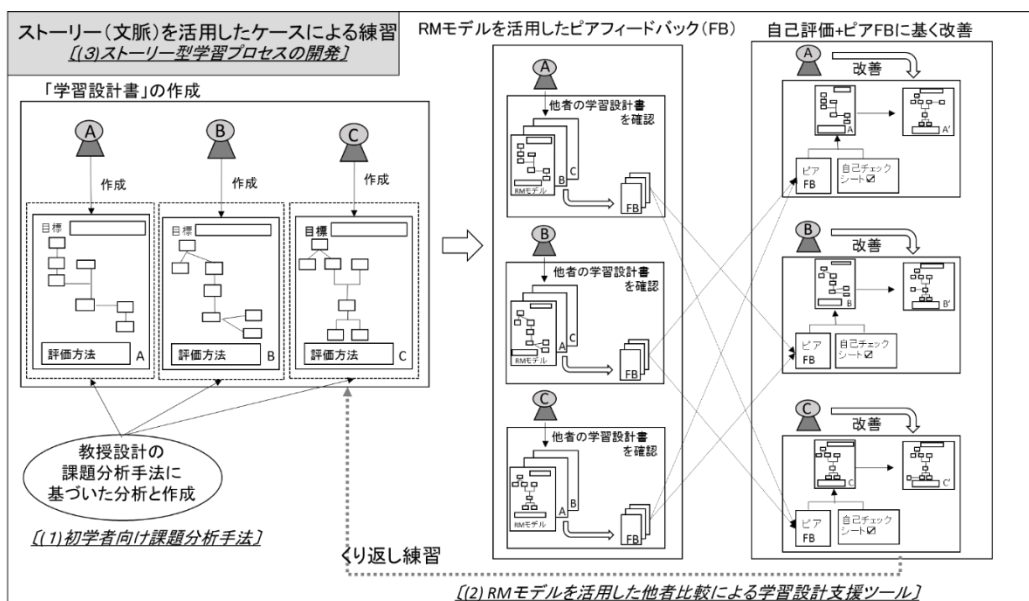


図1 初学者向けの学習設計支援手法案